

□12月1日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版

「主はただ一人、高く上げられる」(イザヤ書2:1～2)

イザヤは戦争で廃墟となったユダ・エルサレムを、多くの国々が仰ぐことになると告げました。それは、今は敗戦国だがいつか力を回復し、強くなって他の国々に君臨するようになるという、復讐の宣言ではないのです。最後の方に「主の教えはシオンから、御言葉はエルサレムから出る」とあるように、神のみことばの真理が発せられるゆえに、ユダ・エルサレムが世界に仰がれるようになるという預言なのです。そして、ユダの民という形をとってこの世に来てくださったイエス・キリストの教えが世界に広がることをも指し、それが成就するのだということが預言されているのです。そのイエス・キリストを通して発せられる教えと御言葉が、4節と5節です。

神が救い主を送って下さることによって、争いの根が断ち切られます。だから戦いのための武器は必要がなくなるのです。軍事力には軍事力でしか対抗することができないと思っていた人間に対し、キリストは、民族を超えてすべての民が尊いことを示され、敵を愛し自分を迫害する者のために祈ることを教えられたのです。その教えと言葉が結実したのが十字架と復活です。

4節の最後に「もはや戦うことを学ばない」という印象的な言葉が出ます。目には目を、やられたらやり返すということばかり考えてしまう、私たち人間の汚い心に、十字架と復活のイエス・キリストの心が満たされてはじめて、戦わなくてよいのだということを知るのではないのでしょうか。5節「主の光の中を歩もう」との勧めは、私たちをイエス・キリストの足跡をたどる生き方に招きます。それは人を蹴落として自分が成りあがることとは真反対の、自己中心な思いを捨てて、隣人を愛する生き方の招きなのです。イエス・キリストは私たち人間の罪を赦し、悔い改めに導き、そしてあまねく平和をもたらすためにこの世に来てくださいました。

それは過去に終わったことではなく、永遠に実現不可能なことでもありません。ここで預言されている、平和が実現する神の時、終わりの時は、今現在の「時」とつながっているのです。

(終)